

1. 本園の教育目標

人間としての根っこ

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

努力目標 「ようちえん だいすき！～みとめよう つながろう たのしもう！～

互いを認め合える居心地の良い幼稚園を目指して」

- 一人ひとりの居場所があり、友達との関わりの中で互いに認め合える集団作りをし、幼稚園が居心地の良い場所となる保育を実践する。
- 感染予防対策を取りながら、幼児が主体的に遊ぶ環境構成や教師の援助について考える。
- 職員内での話し合いを密にとることで共通理解を図り、幼児理解に努めながら、個々の幼児の発達や課題、実態に即した保育ができるように、園内研修を充実し研鑽を積む。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
(1)指導計画の作成	B	幼児の実態と課題について職員で共通理解し、新しい生活様式を取り入れた期案・週案・日案を作成し、努力目標を意識した保育を進めることができた。幼児の主体性と人間関係が深められるように定期的に日々の保育の評価・見直しを図り、ねらいを明確化した立案をすることが必要である。
(2)努力目標について	B	「居心地の良い幼稚園」について職員で話し合い、共通認識できた。教師との信頼関係を基に一人ひとりを大切にしながら、幼児の内面理解に努め、幼児の様子や変化を捉え、保育を進めることができた。幼児が主体的に遊ぶ環境を構成することもできたが、それぞれの発達に応じた保育内容を考えられていないこともあった。
(3)教員の資質向上	A	事例研究や外部講師の招聘、研究保育等の園内研修を通して、幼児の内面に迫ることができ、子供が主体的に遊ぶ環境構成や教師の援助について考えたり、学んだりすることができ保育に生かした。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	努力目標の達成に向けて全教職員で共通理解しながら保育実践できたことと、保護者アンケートの評価結果や幼稚園自己診断及び幼稚園教育の取組と課題の取組状況から、概ね達成されたと思われる。

◎「2. 3.」の評価結果の表示方法

A・・・十分達成されている B・・・達成されている C・・・取り組まれているが成果が十分でない D・・・取組みが不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
努力目標について	「居心地の良い幼稚園」作りを目指し、子供の発達段階をふまえた長期的な見通しをもって、幼児の実態と育みたい力に即した保育内容を考える。定期的に保育の反省・評価をし、それを活かした立案をする。
教員の資質向上	引き続き職員の共通理解と園内での研修に努め、園外の研修にも積極的に参加し、スキルアップに努める。特に、園内研修の充実が図れるように研究の視点を明らかにし計画的に取り組む。